



つくり手インタビュー 第十七回
あさひ製材協同組合
鈴木禎一さんに聞く

Like 0 | 投稿

製材 あさひ製材協同組合 鈴木禎一さん

1947年 愛知県生まれ 1970年 名古屋で建築と製材を手がける会社に就職 1979年 故郷の旭町に戻り 家業の製材業に従事 1987年 あさひ製材協同組合発足。専務理事に。

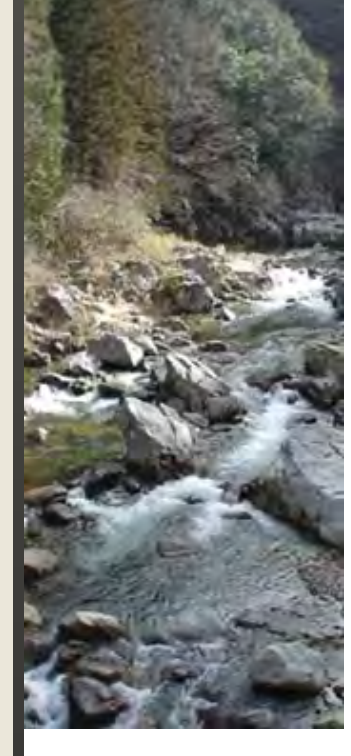
愛知県北部の山奥、自然が豊かな旭町で育ちました。



愛知県の北部、東加茂郡旭町に育ちました。北は岐阜県の明智町、串原村と接した、三河高原とよばれる山の中です。標高は300メートルから600メートルぐらい。ほんとになにもない、自然だけは豊かな、山奥の町です。林業地というほどのところではなく、もともと農業や炭焼きなどを中心に生計を立ててきたところですから、山も広葉樹が結構多いです。昔のあたりまえの里山のくらしで、山も身近でした。薪や萱を採る山があったし、柴(雑木の小枝など)を刈って田んぼに入れたり、ご飯も焚きもんで炊いてたかね。今ではそんな生活スタイルはすっかり変わってしまいました。最近になって、停電で真冬に石油ファンヒーターが10時間使えなかったことがあって、また自宅の暖房を薪ストーブに戻してみたんですが、結構、廊下までホワカしているんですね。

お隣の長野県の茶臼岳山中を源とする矢作川が、町の中心を流れています。子供の頃は、夏になると父兄が川をせき止めて水がたまるようにしてくれて、プールができたものです。オフク口の実家のあるひとつ下流の小原村にもよく遊びに行ったけれど、川に潜るとすごく深く、きれいな魚がいっぱいたな。捨て針って言って、前の日の夕方にハリを仕掛けておくと、翌朝にはウナギがかかる、そんなこともしていました。でも、30年ほど前に、串原村と界を接する山の中に矢作ダムができて、すっかり変わってしまいました。水量がめっきり減ってしまっただけでなく、昔のような土側溝がなくなって舗装道路ばかりになってしまったからか、水も汚れていますね。農業の影響もあるのかな。きれいな水には住んでた魚も、見かけなくなりました。

どんどん人が減っていく故郷。でも、いちど離れてみて、よさが分かった。



トヨタ自動車で有名な豊田市からも、名古屋からも1時間ぐらいいのところなので、働き口を求めて、どんどん人口が流出しています。今、旭町の人口は3600人くらいですが、毎年減ってる感じです。特に若い人がね。通えないことはない距離なんだけれど、1回出てしまうと戻ってくる人はほとんどおらんね。ぼくが卒業した築羽(つくば)小学校も、当時は1クラス52人、全校で250人はいたのが、今では全校で15人ですからね。すっかり変わっちゃいましたね。昔と同じなのは入り口のシダレザクラくらいかな。

ぼくは、中学まで旭町で、高校は豊田に下宿して、名古屋の大学に進学しました。その後、建築と製材をやる名古屋の会社で10年くらい働いて、子供が小学校に入学する時、今から25年ほど前になりますが、旭町に帰ってきて、父がやっている製材所をいっしょにやり始めました。名古屋に住みながら旭町に通っていた時期があるんだけど、その行き帰りに通りがかる天然林の山が、春になると新芽が出たり、秋は紅葉したり、四季それぞれに様子が変わってくんですよ。ずっとここにどっぷりいれば気にもとめないような自然のよさが、一度旭町を離れたことで見えてきましたね。家に使う木材がみんな大きいのにも、びっくりします。名古屋は3寸5分(10.5cm)角がベースになっていたんですけど、こっちは4寸(12cm)角だから。柱は太いし、上に載る梁や丁物も太くなる。4寸は当たり前で、5寸角だって使う。大黒柱だと8寸角とかね。木の使い方がたっぶりしています。

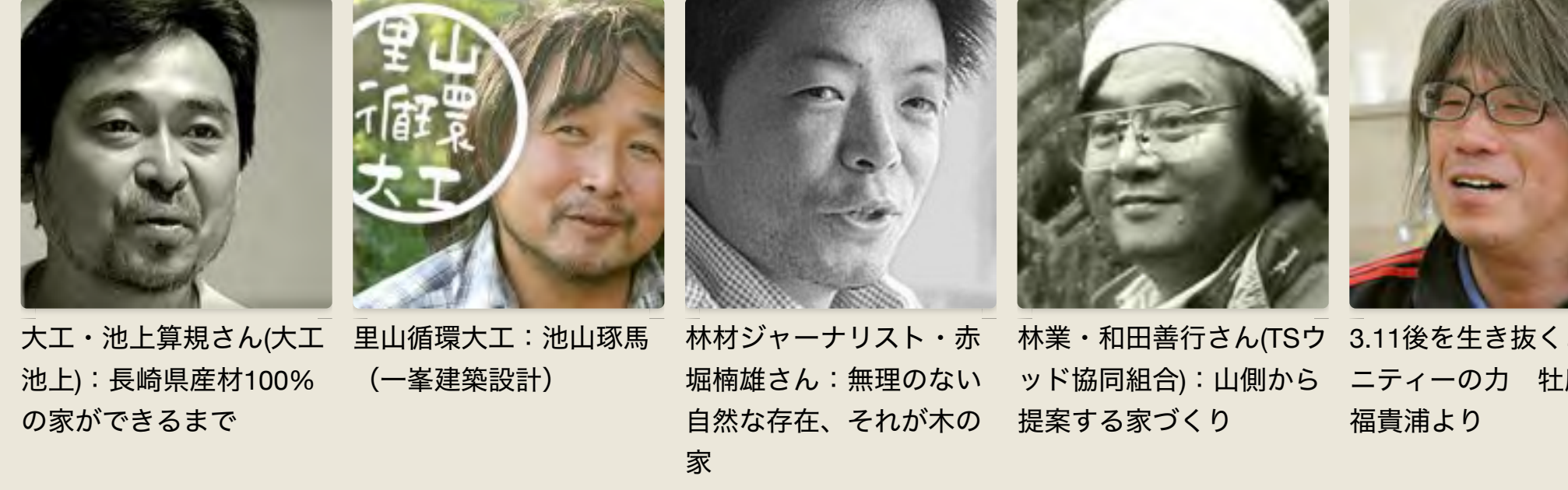
帰ってきた地元ではじめた「あさひ製材協同組合」

旭町は林業地というほどのところではないんです。西には東濃檜を産する加子母村など飛驒の山々があり、東には天竜川流域にまでつながる杉の一大産地があり、ちょうど、桧林業地と杉林業地の中間地点です。すぐ東の豊川水系沿いの設楽町や鳳来町は「三河材」というブランドをつくって積極的に市場に木を出していますが、旭町界隈はそうはならなかった。なぜかという、このあたりには、ひとりで大きな面積の山林をもつ「山持ち」がいなくて、みんなが農家で、裏にちょっとした薪炭林や萱山があって、家を普請する時のために少しは杉も植えていて、という小さな単位なんです。ようするに、個人の財産としての山林なんです。戦後、木材需要が高まった頃から外材が入ってくるようになる前までにかけては、そんな裏山の杉でも、伐って出せばお金になったから、出していた。でも、計画的に何十年もかけて育林、伐採して市場に出す、というほどではなかった。だから、外材が入る前の「木が売れた時代」のピークが過ぎると、山から木を出す人もいなくなってきた。そんな感じなんです。

父もそんなピークの時代に、製材を始めたひとりです。町内の仲間3人ほどで始めたのですが、木を出す勢いが落ち着いてきて、途中からは父1人でやるようになっていきました。町内のほかの製材所も、木を挽くだけでは商売にならないから、生き残りをかけて、製材した木で家を作る工務店的な性格ももつようになっていく。そのうち、それぞれの工場の機械が老朽化してくる。だったら、地元の製材所、建築関係者で組合をつくって、組合員の製材はそこでやるという話が出てきた。そうして昭和62年に発足したのが、このあさひ製材協同組合です。メンバーは地元の森林組合や製材工場、建築会社の代表者12人。ぼくも員外の専務理事として加わり、63年の12月には工場も稼働しはじめました。それ以来、組合員からの委託製材、自然乾燥や低温乾燥による「木材にやさしい」乾燥、床材や壁材などをつくるモルダ加工をやっています。

Like 0 | 投稿

関連する記事はこちら



大工・池上算規さん(大工池上):長崎県産材100%の家ができるまで
里山循環大工:池山琢馬(一峯建築設計)
林材ジャーナリスト・赤堀楠雄さん:無理のない自然な存在、それが木の家
林業・和田善行さん(TSウッド協同組合):山側から提案する家づくり
3.11後を生き抜くコミュニティの力 牡鹿半島 福貴浦より

木の家イベントカレンダー

- 最近の特集記事
- 2019年6月15日
やさしくて強い、理想の家を求めて:アイ設計研究室 大前泰秀さん
 - 2019年5月15日
磨き上げた職人技で、木を生かす:西岡建築一級建築士事務所 西岡健一さん
 - 2019年4月20日
大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊司さん
 - 2019年4月10日
本物の家づくりを、自由に、楽しんで:株式会社木神楽 高橋一浩さん
 - 2019年1月5日
新春特集 2018年のベストショット集
 - 2018年12月29日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声 & 今後の課題編
 - 2018年12月17日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編
 - 2018年12月14日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編
 - 2018年9月4日
番匠 鋸持工務店 副棟梁・鋸持大輔さん
 - 2018年6月15日
鶴岡総会予告 その1 散るより、生き延びよう!

人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御社始祭りに300年の大木を伐る! 18件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
- 設計士・川端さん(川端建築設計):小さな石場建ての家 11件のビュー
- 設計士・古川さん(古川設計):木の家づくりは仕組みづくり 10件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(ピオプラス西條子ザイン):北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
- 大工・高橋俊和さん(都幾川木建):初原の営みに魅せられて 8件のビュー
- 工務店・小田貴之さん(オダ工務店):木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
- 大工・池上算規さん(大工池上):長崎県産材100%の家ができるまで 8件のビュー
- 大工・宮内寿和さん(宮内建築):大工が挑戦する「水中乾燥」 8件のビュー
- 大工・江美さん(サステイナブル森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ):手のひらに太陽の家 7件のビュー

この記事のタグ

- 日本の山河を守りたい
- 環境と共生する家づくり
- 顔の見える関係

同じタグがついた別の記事

- 2011年4月25日
林業・岡崎定勝さん(岡崎製材所):製材所からはじまる木の家づくり
- 2002年6月25日
林材ジャーナリスト・赤堀楠雄さん:無理のない自然な存在、それが木の家
- 2006年10月25日
その木のふるさとを知る
- 2011年7月2日
山への思いを受け継ぐ
- 2015年11月9日
第14期木の家ネット総会 岐阜・加子母大会

地域別つくり手リスト

北海道・東北	関東(東京以外)	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道	栃木県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県
青森県	群馬県	富山県	静岡県	京都府	岡山県	佐賀県
岩手県	埼玉県	福井県	愛知県	大阪府	広島県	熊本県
宮城県	千葉県	石川県	三重県	兵庫県	山口県	長崎県
秋田県	神奈川県	山梨県		奈良県	徳島県	大分県
山形県	関東(東京)	長野県		和歌山県	香川県	
	東京都				愛媛県	
					高知県	



あさひ製材協同組合 第十七回
鈴木禎一さんに聞く
つくり手インタビュー



Like 0

うちは、みんなに利用してもらえる
「賃挽き」の製材所です。



山にある丸い木が、家を建てる四角い材木になるまでには、さまざまな過程があり、職種があります。まずは、素材生産者。植林、間伐をしながらの育林、そして伐採をして「原木」いわば丸太にするまでを受け持ちます。原木を買って、建築用材に挽くのが私たち製材業の仕事です。計画的に育林・伐採のできる林地では、原木を大量に入れ、そこで決めた規格寸法に挽いて「三河杉」「東濃松」などというブランド材として出荷できます。ところによっては、製材工場でプレカットまでやっていて、建築の刻みの段階までカバーすることで商品価値を出そうとするところもあります。製品を大量に作り、それを市場に出すことで利益を得るために、毎日決まったラインを動かしている製材工場と対極にあるのが、うちのような工場です。

うちでは、委託加工が中心です。「こういう家をつくりたいから、こういう風に挽いてくれ」という注文を受けて、持ち込まれた材を挽く。その手間賃をもらう、いわば「みなさんに利用してもらう」製材所なんです。意外と、そういう融通が利く製材所って、ないんですよ。普通の製材所だと、決まったラインを動かすのに忙しいからね。まあ、一立米いくらの委託加工、いわゆる「賃挽き」ができるのも、原木を仕入れて製品を出す、という「売り」の仕事をしていないからこそ、なんだけれどね。短いものだったら30cmくらい、長いものは13mの材まで、挽きます。丸太の消費量はだいたい年間1700~1800立米くらい。一番多かったときで2000立米くらいかな。

手間賃は、一立米あたり定尺の6mまでならばいくら、それ以上ならいくら、そして造作材みたいに挽くのに時間がかかるものはいくらという具合に金額を決めています。時間当たりの賃料を決めて挽く工場もあるようだけれど、ウチの場合はどれだけ時間をかけても値段は変わらない。ある意味、時間をかけてやりたいという思いもあるから、1立米当たりの賃料なら、こっちは納得いくように挽ける。簡単なものならすぐに挽けるけど、少し複雑なものや特殊なものは時間もかかるし、じっくりと考えて念入りにやりたいしね。すべてが「注文」。だけれど、どんな風に使うのかを想定して、挽く。そこが、大量に規格品を挽いて、どこの誰がそれをどのように使うのか分からない、というとはまったく逆で、ここには「顔の見える関係」があります。規模は大きくないし、量はそんなに挽けないけど、人とのつながりがができる。それを大切にしたいという気持ちでやっています。

「この木をこう使いたい！」建て主さんの気持ちを形にしていく仕事。



量としては、組合員である製材所や工務店の注文で挽いてあげるものの割合が多いけれど、建て主さん当人が木をもちこんでくるような話もパラパラとある。「そこに立てたコナラを飾り棚にしたい」「自分の山の木で家をつくりたいから、家1軒分の丸太を持ってきた」・・・そんなお客さんと巡りあえるのが、委託加工の楽しさですね。丸太を持ち込んでくる人にはまず、これで何を探りたいのか、ということをまず聞く。「芯で梁を探りたい」とかね。その注文に合わせて、こちらで木取りして挽いていくんだけど、こちらからお客さんに対して「そりゃあまずいよ」ってアドバイスすることもありますよ。木の狂いとか癖とかを見てね。ねじれとかも木それぞれだからね。

さっき来てた人は、自分の家に使う材を挽いてくれという注文でマツを持ち込んできた。今あれだけマツクイ虫にやられていないいいマツも少ないな。北向きのわりと涼しいところにあったから、やられなかったんだ。それを、八角に挽いてくれたっていうわけ。それを自分でチョウナではつって仕上げるんだって！ それから大工に刻ませるんだらうけど、すごいよね。あそこにスギが4、5本あるのは、半田市の人が自分で足助町森林組合の共販所から買ってきた木でね、この辺の木にほれ込んで店舗や住宅に使ってみるんです。こっちの松や栗は隣の人の、何年か後に「地元の山の木で家を建てる」ために、市場で少しずつ丸太を買ってきては、ここで挽いていって、ストックしているんですよ。こういう人が増えてきたら楽しいだろうな。

木の家ネットを見て連絡してきた埼玉の人もありますよ。「自分の山の木で家を建てたいのだけれど・・・」という相談でね。どの木をどう使ったらいいか、そこから考えなきゃいけないから、一度その山にいっしょに行って見てきたいですね。

木取りは芯から。
木の背と腹、元と末をよく見る。



製材にはいくつか気をつけなきゃいけない基本がある。まずは「木取りは芯から考える」。丸太の外側の方で鴨居を採っていった、残ったところから柱を採ってみたら芯がずれちゃった、なんてことがおきないようにしなければダメなわけですよ。ヒノキはまだいいけど、スギはちょっとでも芯がずれるとすぐ曲がるから。そういうことのないように、きちんと使えるように採る。芯をイメージしながら、外から挽いていくんだね。

もうひとつの基本は、「木の背と腹をよく見る」木の南側だった方は枝が出てくるから、節が多い。こっちが背。逆に、北側は枝があまりないから、節の無い良い面が採れる。こっちが腹。で、鋸を入れるときは、まず、必ず腹を上にしておく。「きれいにしてやるよ」と思う面を上に向けて、それを見ながら芯を出し、鋸を入れていく。良い面をどれだけの幅で採れるかを考えてやるわけね。腹を横にするやり方もありますけどね。もうひとつは、鋸を入れるときに逆木にしないで、必ず頭から入れていくこと。

こんな感じに、いくつも考えなきゃいけないことがある。だから、製材で一番面白いのは台車に乗って木を一本一本見ながら、どうやって必要な材をとっていくか、木取りを決めていく人だろうね。自分でも時々やるけれど、工場には専門職がひとりいます。他のことは何も意識しないで集中してやっていますよ。

Like 0



木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

- 2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を
- 2018年2月7日 「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ
- 2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット
- 2017年12月14日 第17期木の家ネット総会：倉敷大会 - 民家改修と良家-
- 2017年10月14日 気候風土適応住宅のチラシができました！
- 2017年9月4日 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ
- 2017年8月8日 家にお風呂が入るまで
- 2017年6月30日 気候風土適応住宅のスヌメ
- 2017年6月3日 掛川総会 3
- 2017年5月31日 掛川総会 2

人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御袖始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
- 設計士・川端眞さん(川端建築計画)：小さな石場建ての家 11件のビュー
- 設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 10件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
- 大工・高橋俊和さん(都幾川木建)：初原の営みに魅せられて 8件のビュー
- 大工・池上眞規さん(大工 池上)：長崎県産材100%の家ができるまで 8件のビュー
- 工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
- 大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」 8件のビュー
- 林業・和田善行さん(TSウッド協同組合)：山側から提案する家づくり 7件のビュー

この記事のタグ

- 日本の山河を守りたい
- 環境と共生する家づくり
- 顔の見える関係

同じタグがついた別の記事

- 2011年4月25日 林業・岡崎定勝さん(岡崎製材所)：製材所からはじまる木の家づくり
- 2010年2月25日 林業が良くなっていくには、何が必要か
- 2010年10月9日 森林・林業・地域再生を目指して
- 2005年2月25日 緑の日本であり続けるために
- 2009年4月30日 山里の暮らしがなくなる？

関連する記事はこちら



大工・池上眞規さん(大工 池上)の家のできるまで | 里山循環大工：池山琢磨(一筆建築設計) | 林材ジャーナリスト・赤堀楠雄さん：無理のない自然な存在、それが木の家 | 林業・和田善行さん(TSウッド協同組合)：山側から提案する家づくり | 3.11後を生き抜くコミュニティの力 杜鹿半島 福貴浦より

地域別つくり手リスト							
北海道・東北	関東(東京以外)	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州	
北海道	栃木県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県	
青森県	群馬県	富山県	静岡県	京都府	岡山県	佐賀県	
岩手県	埼玉県	石川県	愛知県	大阪府	広島県	長崎県	
宮城県	千葉県	福井県	三重県	兵庫県	山口県	熊本県	
秋田県	神奈川県	山梨県		奈良県	徳島県	大分県	
山形県	関東(東京)	長野県		和歌山県	香川県	愛媛県	
	東京都				高知県		



つくり手インタビュー 第十七回
**あさひ製材協同組合
鈴木禎一さんに聞く**
肌で木に触れられる
家づくりがいろいろ！

1 2 3

Like 0 [✕ ポスト](#)

挽いた木が、木の質感あふれる家に 使ってもらえたら本望です。



山に立っていた木が、肌で木に触れられる、木の質感あふれる家の材になったらいいなあ、製材を通してそのための手伝いをしたいなあ、というのが私の願いです。日本の昔からの家って、そういう家だった。がっちり木を組んで、真壁で柱や梁が見えていて。旭町あたりだと、新築でもまだまだそういう家を作る割合が名古屋よりは多くて、そのため材を挽くことが多いですね。うちに賃挽きにもちこんでくるお客さんには「木を表に出して使うような材を挽いてくれ」って言う注文が多いので、うれしいんです。

昔ながらの技術を使って、木のよさを活かした家がいい。でも、昔のままのつくり方だと寒かったり、すきま風があったりするから、そういう点は、今の生活の要求に合った形に改良していけばいい。そのために、お客さんには厚みのある板を使うことを勧めています。24mmとかの厚みがある板を壁や床に使用すれば断熱性もある。前に名古屋で台所の改装に使われる材を納めたことがあるんだけど、床板にね、40mmの杉板を張って、その上を15mmのヒノキのエンコ板で仕上げた。合わせて55mm。そしたら冷暖房効果が全然違っていて。下からの冷えもないし、さわった感じも違っていて喜んでもらえました。

古い家に新しい人。外から入ってくる人に期待してます。



最近は新建材ばかり使って、バタバタと短期間で建てられる家ばかりになった分、家を壊すサイクルも早くなっているのが残念です。昔の家は何百年も補修しながら使っていたわけでしょう？ そういう風に長く住み続けられる家がいい。そうなる、やっぱり、木と木をしっかりと組んだ家がいいんです。そういう家がまだこの旭町にはポツポツと残っている。だから、昔からあるいい家を残していくにはどうすればいいのかな、ということも考えます。うちの両親が住んでいる母屋なんかは築100年以上。でも、骨組みがちゃんとしていれば、直しながら住み継いでいける。人が住んでいさえすればね。

住まなくなると、あつという間に家って、荒れてしまうんです。旭町でも、昔の立派な家が無人になって、朽ち果てていつている。ほんともったいないですね。その家の親族が住まないのなら、「ターン」などで、「旭町に住みたい！」と望んで来る人が住んでいけばいいのだけれど、家を賃すってなると、なかなか、持っている人は自分が住まなくても躊躇してしまうんです。それも分かる。旭町の役場でも、1ターンの人たちが古い家を探すのに情報提供ぐらいはしているみたいだけれど、なかなか、話が成立するところまではいかない。

どんどん人が減っていて、数少ない地元若者たちも、外に出て行くことを望んでいる。その流れを止められないのなら、旭町のよさを好きになって外から入ってくる人たちが、これからの旭町をつくっていくことに期待してみてもいいんじゃないかな。万博のおかげで、猿投グリーンロードもさらに整備されて、名古屋へのアクセスもぐんとよくなる。名古屋市内にいらなくても仕事ができる、フリーランスの人やアーティストなどが旭町に入ってくる、そんな受け皿ができると、地元にも新しい刺激になるし、昔からあるいい家も、いい形で残っていくんじゃないかな。そのしくみづくりが必要だと思っています。こんど豊田市に合併になるので、そのあたりにちょっと期待しています。

山の木と住む人の縁結びを、これからもしていきたい！

名古屋の設計事務所の仕事で、4本の大黒柱を使った家のための木を挽いたことがあります。お父さんの木、お母さんの木、息子さんの木、娘さんの木がそれぞれあって、自分の大黒柱の木の皮は自分で剥いたり、家族で楽しく家づくりに参加していました。そこで使ってもらったヒノキの床板に、1カ所、抜け節ができたんです。でも、「すぐ直して」とはならなかった。楽しいからこのままでいい。設計士さんが木はこういうものだよ、ということをよく話してくれていたのもよかったし、やはり自分たちで木に触れて、木を好きになってきたからだと思います。



その家の上棟式にも招かれて行ってきました。家だけでなく、人間関係ができたって感じがしたね。お互いの顔が見えて、商売だけじゃない付き合いが生まれるのがうれしいし、そういうつながりのある仕事をしていれば、ウチで挽いたものがどう使われるかを見ることができて、いいものですよ。名古屋や豊田あたりで「近くの山の木で家をつくりたい」という希望があれば、足助の原木市場には、東西加茂郡の木がたくさん集まってくるから、そこで木を買って、うちで挽く、そんなお手伝いができます。これからも、近くの山の木とみなさんとの縁結びをするような仕事をしていけたら、と思っています。

自立のための道具の会

鈴木さんがボランティアでされている活動をご紹介します。正式には、大工道具、簡単な工具など、身近に置ける「手で使う道具」を集め、開発途上国の人たちに提供して、生活基礎の確立や自立に協力することを目的としています。イギリスで始まった運動で、各国に組織があります。

日本では鈴木さんたちが中心になって1993年に発足。名古屋市内に事務局があり、あさひ製材協同組合は送られた道具の保管と整備作業場所の提供をしています。これまでに道具を送った先は、タイ、インド、スリランカ、フィリピン、パングラテシュ、カンボジアなど。

Like 0 [✕ ポスト](#)

1 2 3

関連する記事はこちら



大工・池上算規さん(大工池上)：長崎県産材100%の家ができるまで
里山循環大工：池山琢馬(一峯建築設計)
林材ジャーナリスト・赤堀雄雄さん：無理のない自然な存在、それが木の家
林業・和田善行さん(TSウッド協同組合)：山側から提案する家づくり
3.11後を生き抜くコミュニティの力 牡鹿半島 福貴浦より

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

- 2016年12月23日 [掛川総会](#)
- 2016年8月2日 [込み栓角ノミ復活！松井鉄工所訪問記](#)
- 2016年6月21日 [熊本震災レポート2](#)
- 2016年6月9日 [大工たちによる「家戻し」の記録](#)
- 2016年5月21日 [熊本震災調査レポート](#)
- 2016年4月28日 [古川 保の熊本市川尻町 震災日誌](#)
- 2016年3月31日 [2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート](#)
- 2016年1月27日 [地域型住宅の省エネルギーを探る～2016.1.17 京都フォーラム報告](#)
- 2016年1月14日 [第15期 木の家ネット総会 高知大会～会員発表篇～](#)
- 2015年11月13日 [工務店・小田貴之さん\(オダ工務店\)：木の家づくりのプロデューサー](#)

人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御袖始祭り：300年の大木を伐る！
18件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ
15件のビュー
- 設計士・川端眞さん(川端建築計画)：小さな石場建ての家
11件のビュー
- 設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
10件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(ピオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり
10件のビュー

- 大工・高橋俊和さん(都幾川木建)：初原の営みに魅せられて
8件のビュー
- 大工・池上算規さん(大工池上)：長崎県産材100%の家ができるまで
8件のビュー
- 工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデューサー
8件のビュー
- 大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」
8件のビュー
- サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート
7件のビュー

この記事のタグ

- [日本の山河を守りたい](#)
- [環境と共生する家づくり](#)
- [顔の見える関係](#)

同じタグがついた別の記事

- 2007年11月25日 [木の家ネット第七期総会・徳島大会レポート](#)
- 2015年11月9日 [第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会](#)
- 2011年4月25日 [林業・岡崎定勝さん\(岡崎製材所\)：製材所からはじまる木の家づくり](#)
- 2010年2月25日 [林業が良くなっていくには、何が必要か](#)
- 2006年11月26日 [大工・池上算規さん\(大工池上\)：長崎県産材100%の家ができるまで](#)

地域別つくり手リスト	
北海道・東北	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県
関東(東京以外)	栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県 東京都
甲信越・北陸	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県
東海	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
関西	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
中国・四国	鳥取県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
九州	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島倉内
mail: jimukyoku@kino-ie.net
tel: 086-486-5464